

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100323		
法人名	㈱遊子苑		
事業所名	グループホーム遊子苑ながた		
所在地	石川県金沢市長田本町ホ14番地1		
自己評価作成日	令和1年11月24日	評価結果市町村受理日	令和2年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和2年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「楽しく仲良く安心して過ごして頂ける家」の基本理念を職員皆が胸に刻み入居者に笑顔あふれた毎日をご提供いただけるよう一人おひとりの言葉を大切に日々のケアに生かしています。毎朝のラジオ体操と昼食前の体操は開設当初より毎日の日課となっており今では音楽や時間になるとフロアに入居者が自然と集まり職員と一緒に笑顔で声を出して体操をされています。また週に3回ほど30分かけて全身の体操を行っています。両ユニットの扉を開けて入居者が行き来しやすい雰囲気づくりを職員全体で作上げる事で入居者の活動参加や役割のほりあいが多く見出せる機会となるように取り組んでいます。今年度は入居者様との話の中からはかきもちや梅干しが食べたいとの何気ない声を拾い材料の下準備から仕上げまで入居者様と一緒に初挑戦してみました。普段の生活では見られない表情や行動が見られた事が職員の喜びとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に基本理念をいくつか掲示している。利用者の方に「楽しく・仲良く・安心して」暮らしていただける家となるよう管理者、主任が中心となりミーティング等で話し合い実践に繋げるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭りや公園の清掃活動に参加している。天気の良い日には利用者と一緒に近くのスーパーや公園に散歩にも行っている。歌の好きな利用者には合唱サークルに参加しホテルや記念館などで発表会が開かれている。近くに主治医のクリニックがあり受診に出かける事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	遊子苑たよりの町内回覧や運営推進会議等で事業所としての活動や支援の方法を地域の人々に理解を深めてもらえるように努めている。家族の希望に添ったテーマでの勉強会を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の運営推進会議でご家族や委員にホームの取り組みや近況を報告、意見交換を行っている。その都度意見交換をしサービスの質向上につなげている。家族の希望に添ったテーマでの勉強会を開催した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に参加していただき事業所の活動、取り組み等を報告している。又介護保険制度で不明なことは都度問い合わせをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月全体ミーティング時に「身体拘束適正推進委員会」を開き職員全体に理解をしてもらえるように努めている。玄関、出入り口の施錠は行わず利用者の気持ちに寄り添い支援をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部研修に参加しミーティングで研修の発表をしている。又毎月「身体拘束適正推進委員会」の中で「身体拘束・虐待未然防止の取組」として不適切ケア等についての話し合いをし職員同士できつきケアの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居前には事前に当事業所に見学に来ていただき家族や本人の相談を伺えるように努めている。成年後見制度を利用されている利用者が現在入居されており関係者と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に可能な限り見学に来ていただきその場で不安や疑問や分からない事を説明した上でさらに契約時には内容をもう一度説明し疑問がないか確認をしている。改定時にも十分な説明を行い理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を二か月に一度開催し、家族の意見や要望を地域の方外部の方にも発信し運営に反映している。中でも年に一度のバーベキュー大会では介護相談員も今回より参加、多くの家族に参加いただき多様な意見を聞く機会が持っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管理者ミーティングを開催し代表者が管理者や職員の意見や現状を聞く機会を設けている。又管理者はシフト勤務に入り現場の状況把握に努め職員から意見が出やすい環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握できるように、日頃から管理者と密に連絡を取っている。働きやすい環境づくりに十分配慮していただき人員も安定している。その中で役割分担を明確化する事で定時に帰宅、休憩時間がとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に合わせた研修の参加をしている。また「チャレンジシート」を活用しフロアや個々で目標を設定し達成に向け取り組んでいる。今回は全事業所目標を統一し取り組みサービスの質向上委員会で情報を共有した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習研修の受け入れ・他グループホームの見学やグループホームの連絡会への参加等で同業者との交流を図りネットワークづくりに努めサービスの質向上につながるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に本人とゆっくり関わる時間を設け、新しい環境の中で生活する不安や戸惑いがないかを表情や会話の中から知る努力をする。知り得た情報を職員間で共有し安心して過ごせる支援の方法を検討し実践に努めている。又家族からも情報を頂き安心できる環境に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能な限りご本人と家族に面会に来て頂き不安な事や不明な事などをお聞きし家族との連絡を積極的とっている。入居後も家族に生活状況をお伝えし信頼関係が持てるように努めている。又初期のケアプランで家族より要望をお聞きし支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が必要としている支援の意向の確認をしっかりとるように努めている。現在の心身状態と生活状態でできる事や継続の必要性、又課題を抽出し本人家族の合意の上、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を自分から率先して行えるよう職員がさり気なく一緒に行動し暮らしを共にする関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず本人と共にコミュニケーションを図っている。家族に行事やレクリエーションなど気軽に参加していただけるように努めその時の本人の様子や思いを家族と共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切にしていた友人や近隣の人達が来苑出来るよう行事等を面会時にお知らせしている。又個別支援では買い物ついでに自宅へ服を取りに行ったり兄弟の家へ訪問している。又馴染みのカラオケスナックに行きたいと同行支援しとても満足されていた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士がお互いの居室に行き来したり居室で昔話をされたりしている。又共有フロアでは職員がコミュニケーションの橋渡しを行う事で誰ひとり孤立することなく過ごせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて家族からの相談を受けたり受け入れ先探す等の支援を行う体制になっている。又契約時や退去時には家族にその旨十分お伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者同士の会話の中や利用者との関わりの中から本人の希望、意向の把握に努めている。本人からの聴取が困難な場合でも本人の行動や表情から思いをくみ取るよう努め自分で知りえた些細な情報も職員間で共有し本人本位のマネジメントになっているか検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活等の情報をご家族や本人から聴取しアセスメント内容を職員間で共有しながらその人らしい暮らしの理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活している中で利用者の心身状態で新しい発見があれば職員間で共有している。その方の有する力が活用できるよう日々の活動の変化に注視しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に一度のモニタリングを実施している。担当職員が中心となり本人やその他職員が思いや意見を出しあえる場を設けている。カンファレンスや職員ミーティングでの意見、ご家族からの要望、本人の思いを基により良い暮らしができるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はプランに基づいた本人との関わりの中で本人から発した言葉を気づきとして記入するようにしている。又その中から本人は何を望んでいるのかを職員間で話し合い情報を共有し実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に合わせた個別支援が出来るよう可能な限り市内の馴染みの店や買い物に出かける支援を行っている。又好みの趣味を楽しめるようご自分のこだわりの材料やお店での購入支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事前に地域の行事日時を把握し、利用者に参加を促している。夏は浴衣を着て盆踊りに参加し秋祭りには町会の獅子舞を見て踊りや笛、三味線の音色を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の訪問診療の際には日頃の様子を報告している。気になる点があればその都度報告し指示を受けている。症状によっては定期以外にも主治医の往診があり適切な医療が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には日頃から状況報告や特変時の相談などいつでも連絡できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先に十分な情報提供を行い安心して入院生活が送れるように支援している。又病院に伺った際には担当者より様子をお聞きしスタッフ間の情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される段階よりご家族には近況報告を密に行い今後の要望など確認している。終末期の支援については施設内で行える事と出来ない事を説明し理解していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており職員全員がマニュアルを元にシュミレーションを行っている。又実際の急変時や事故発生時にはその後の振り返りを行い今後に生かすようにしている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	けが、転倒などそれぞれの症例に応じたマニュアルがあり全職員が読み込みをしている。救急車依頼や電話連絡対応等の練習を行っている。また救命講習に参加し実践力を身につけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	主治医による月2回の訪問診療で利用者の健康状態の確認と薬についても相談、報告をしている。利用者の状態変化には主治医、ケアマネも含め他のバックアップ機関と相談している。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	2ユニットのグループホーム、併設の3ホームに合わせ各フロアに1名ずつ計3名が夜勤者として配置されている。緊急時には3名が協力し利用者に付き添う、連絡する。利用者を見守るなど声をかけあい協力して緊急時の対応が行えるようにしている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議、他定期的に利用者も含め訓練を行っている。訓練後には町会役員や家族、金沢市担当職員より意見を頂き今後の訓練に生かしている。全職員に訓練後の講評、結果を報告し災害に対する意識を高めている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時には利用者の安全確保を第一とし災害マニュアルに沿って行動するよう周知している。非常食、水は賞味期限が切れないように交換している。避難訓練後の地域の方の意見よりヘルメットを各フロアに常備し緊急持ち出し袋の中は定期点検を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時やミーティングでの利用者をインシヤルでお伝えしている。ミーティングなど利用者が希望されれば参加している。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を気軽に職員に伝える事が出来るように人間関係の構築と雰囲気づくりに努めている。絵を描きたいという方がいらっしや、絵の具や色紙と言った物をご本人と相談して用意したり、時には買いに行ったりしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けして参加の有無をご本人に決めていただいている。体調や気分のすぐれない時は無理強いのないようにしている。その方に合わせ気持ちが落ちていく方にはご本人のやる気を出してもらえ前向きな言葉かけをし、参加をうながすこともしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方のこだわりを大切にしている。入浴時には選べる方は一緒に着替えを準備している。外出時にはおしゃれを楽しめるよう「今から出かけるからおしゃれして出かけましょう」と声掛けしたりしている。月一回の理容ボランティアがあり、定期的に利用できる。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを大切に提供している。苑内で野菜を育てて収穫した物を食事材料に使用したりも掘りなどの行事をしている。又、利用者の方に出来る事を職員と一緒に準備や片付けをしていただいている。又、月1回の外出支援を行っており、利用者の方も楽しみにされている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人のあった食事形態を行い見る楽しみも大切にしている。箸やスプーンなどご本人が食べやすい物を使用し支援している。水分はお茶の苦手な方には好みのジュースを提供し、水分補給に努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けをし、出来るところはご本人にして頂き、見守り声掛けを行っている。義歯の方は定期的に消毒を行っている。又、ご本人希望で口の中や義歯の調子が悪いなどで訪問歯科を利用している方もおり、歯科医に相談や注意点を聞く等している。又食事前の口腔体操も皆で行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人一人の排泄リズムの把握に努めている。又、自分で自発的にトイレへ行けない方にはトイレに行きたいサインに気づき、ご本人に声かけしてトイレ誘導したりしている。又、足の筋力が弱く自分では立てなくなってきたりの方もトイレへお誘い2人介助にてトイレでの排泄を促す支援に努めている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し排便状況、状態を職員同士把握している。ご本人が自発的に水分補給をされない方には声掛け、説明等し水分をとっていただくような支援をしている。又ご本人の体調に合わせて体操への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や気分に応じて入浴のお誘いをしている。入浴を楽しんでいただけるような工夫としてしょうぶ湯や柚子湯等を提案し、実際にお話ししながら季節感を感じていただける支援をしている。又、入浴を嫌がられる方には無理強いせず、ご本人の気持ちを尊重しながら、足湯や清拭等の支援をしている。		
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態、状況を職員同士把握し、休息や安眠の支援に努めている。不安で訴えの多い方には出来る限り横についてあげたり、話を傾聴したりして、安心して眠れるよう支援している。又、居室の環境(温度、遮光、等)にも気を付けている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が担当の薬の薬性に目を通しどんな薬を飲んでいるのか把握している。又、毎日薬のセットをし、一人一人が朝、昼、夕の薬がしっかりセットされているかの確認を職員2人でしっかりとしている。又、利用者の病状の変化、状態、状況を職員は看護師に報告、主治医等と相談しながら薬の調整を行っている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみごと、張り合いにつながる様な支援が出来るよう努めている。台所でお話ししながらの盛り付けが好きな方、絵を居室でじっくり書くのが好きな方、歌を歌うことが好きでDVD見て一緒に歌を歌っている方等ひとりひとりの楽しみを把握する事にも努めている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎週1回買物に出掛ける日があり、利用者様と相談して一緒に出掛けることがある。又、ご本人が食べたい物があるといったときは相談して一緒に買いに行く事もある。天気が良い時は花見に行ったり、海を見に行ったり、紅葉を見たり、卯辰山で鯉に餌を上げに行ったりした。月1回は外出支援として皆で食べたい物を聞いて食べに行く支援も行っている。又、個別で行きたい所(昔の良く行った銀行や喫茶店)と一緒に出掛けたこともあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があればご家族の了承の基、所持していただいている。自分で手元にお金があることが安心につながっている方もいらっしゃる。自分のお金で職員と一緒に出掛けお菓子をかうこともある。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に了承を得た上で本人の希望があれば連絡できるようにしている。携帯を持参され使用している方もいらっしゃる。制作できる利用者の方には年賀状作りをし、それをご家族あてに送ることをした。又、ご家族様から送付された手紙をご本人に了解の上、ご本人に読んであげると喜ばれ何度もながめていた。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの位置や居室がわからない等混乱のないよう表示を大きくしたり、矢印をつけたりして配慮している。又、フロア全体が季節感が出るような装飾の工夫に心掛けている。この時も利用者の方と一緒に作り、一緒に見ては共感している。又、フロアには空気清浄機(加湿器)、温度計を置き、湿度、温度にも配慮している。		
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方同士でTVを見たり、お話が出るようソファの位置やテーブルの位置に配慮している。ご自分の場所の椅子と決めている方はご本人の決めた座布団が置いてある方もいらっしゃる。又、利用者同士がトラブルにならないようなテーブルの配置にも配慮している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族の方と相談しながらレイアウトを決めさせていただく。本人の家で飾っていた物や、愛着のあるぬいぐるみを持って来られる方等いらっしゃる。又、転倒の危険性がある方にはご本人に了解の上、その人に合った配慮が工夫している。(床にマットや滑り止めマット、夜よく歩く方には足元に採光している)また、こだわりのある方はその方が落ち着くセティングを職員統一して行っている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、風呂等に手すりを設置されているが、下肢筋力低下予防の体操に使用したりすることもある。又、利用者の使用時以外のシルバーカーの置き場所に注意し、歩行の妨げにならないようにしている。		